

## 「防災の日」にあたって

令和6年（2024年）は元旦の石川県能登半島地震のニュースから始まりました。7月末にも、東北地方で集中豪雨が、8月には九州南部や、神奈川県西部で地震が、8月末には台風10号が日本列島を縦断し、それぞれに大きな被害、影響が出ました。

8月8日夕方に発生した、九州南部を震源とする地震は最大震度が6弱というかなり大きなものでした。そして気象庁は、南海トラフ沿いで近い将来に「巨大地震」が発生する危険性が高まっているとして、初の「南海トラフ地震臨時情報」を発表しました。この「南海トラフ地震」は記録が残っている7世紀頃から振り返っても、100年～150年間隔で繰り返し発生しています。前回は1944年、1946年に続けて発生しており、既にそれから80年が経過しています。このときは三重、和歌山沖が震源で太平洋側の広範囲で最大震度7、津波も発生し、この2度の地震で3000人ほどの命が失われたということです。こういう経緯がありますので、気象庁は「南海トラフ地震が発生する可能性がふだんと比べて高まっている」として、注意を呼びかけたわけです。

9月1日は「防災の日」でした。この「防災の日」が制定された前年、1959年9月26日、「伊勢湾台風」が東海地方を直撃し、愛知県、三重県を中心に5000名以上の方が亡くなっています。本校では、この「防災の日」にちなんで、防災（避難）訓練を実施し、皆さんに防災に対する心構えを持ってもらうようにしています。地震、火事、風水害、いずれも、自分の身は自分で守るという意識と同時に、周りの人と助け合い・協力することが大切です。

我が国は自然災害の多い国です。地震や風水害に苦しめられ、その都度復興のために戦ってきました。科学技術が発達した現代においても、自然の前では我々は時として無力です。しかし、私たちは過去の経験から学び、極力被害を少なくするための知恵を蓄積することができます。災害が起きても暴動も略奪も起こさず、助け合うことができる、災害に強い国作りを続けていく必要があります。一人一人にできることは小さいのですが、助け合うことで、被害を極力少なくすることができます。また、現在では、技術の進歩により、台風や集中豪雨等早めの予報ができるようになりました。スマートフォンを始めとするモバイル端末もどんどん進化しています。自然災害に対して普段から危機意識をもち、自分と周りの人の命を守るためにアンテナを張り、正しい情報を得ることが重要だと思います。この機会に、周りの人と、日頃からどんな備えをしておくか、いざというときにどう行動するか、どこに集合するか等、話題にしてみてください。

校長 長谷川哲司